



Special Olympics
Nippon
Toyama

No. 25
2009/3/28

ハートフル・ニュース

発行：スペシャルオリンピックス日本・富山 会長 藤井裕久

URL <http://www.son-toyama.jp/>

事務局：〒939-8208 富山市布瀬町南2丁目10-14

076-400-7736 (電話) 076-415-0842 (ファックス)

Email : info@son-toyama.jp

スペシャルオリンピックスは、知的発達障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。SO では、これらのスポーツ活動に参加する知的発達障害のある人々をアスリートと呼び、多くのボランティアやアスリートのファミリーが一緒になって活動を支えています。ここ富山でもSOが活動しています。現在約140名のアスリート会員が8つの競技種目に取り組んでいます。



2009年冬季フロアホッケープログラムの富山・高岡合同トレーニング

今季のエッセイ

振り返れば6年...

2003年3月8日。私の40歳という節目の誕生日だったその日は、富山で初めて細川佳代子 SON 名誉会長(当時理事長)の講演会があった日として一生忘れることができない日です。その講演会には、それまでは互いに存在すら知らなかった村中(財務副委員長)らの高岡養護学校保護者と、吉田(事務局長)・清水(運営委員長)らのボランティア組も出席していました。その後、私たちは石川で開催されたゼネラルオリエンテーションで偶然にも鉢合わせし、富山でのSO発足に向け意気投合し、双方の仲間に呼びかけて20名ほどの発起人会を立ち上げるに至ったのです。

あの日から早6年が過ぎ、プログラムの種目も増え、富山でのSOは大くなりました。発足当時は参加もできず、ただ遠くから眺めるだけの2005年SO冬季世界大会・長野でしたが、上海大会、アイダホ大会と、富山のアスリートたちは輝かしい成果を収めるまでになりました。SOには、アスリートたちがスポーツにおいて輝ける場を提供すること以外にも、「共に助け合い、支え合いながら生きる社会づくり」という目的があります。障害のあるアスリートたちは、どんなに成長を遂げようとも生きていく上で大勢の人

SON・富山 スポーツプログラム委員長 澤田 守弘の助けを借りなければなりません。様々な活動を通じて地域社会に理解者・支援者の輪を広げるとともに、アスリートたちの生活の空間を広げていこう、ということです。

自分の子に障害があると知り、戸惑いと不安でもがく中で出会ったSOの活動。最初は微かな「希望の光」のようでしたが、迷う間もなく自ら真っ先に飛び込んで、がむしゃらに前へ前へと進んできました。SOは私の期待を裏切りませんでした。関われば関わるほど、知れば知るほど、やがてその微かな光が明るい「確信の光」に変わってきました。説明会では「SOの活動は全てがボランティアによって支えられている」と言われています。初めは、自分はファミリーという立場でこの活動にどう関わればいいのか思い悩むこともありました。しかし、今ではその迷いは吹っ飛びました。

「ファミリーだって、我が子に接するときを除けば、その活動は立派なボランティアじゃないか！」

遠慮することなく、みんなと一緒にこの活動を支えていこうと思っています。「共に生きる社会」を目指して。

2009年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・アイダホ

選手団と一緒に行って応援してきたファミリーと、アスリートに同行したコーチからのレポート

2009年SO冬季世界大会・アイダホに参加して思うこと

“Akari is great!!”それは大会の最終日、娘明里たちのフロアホッケーチームの応援に車で1時間半かけて来てくださったホストファミリーと私たちがお会いしたときのウィルソン夫人の言葉でした。選手団はアイダホへ到着した後、開会式までの4日間、ワイザーでホームステイをさせていただきました。その後、大会が開催されたボイジーへ移動し、7日間の大会に出場しました。障害のあるアスリートを受け入れてくださったことや、応援席で選手団に送られる温かい眼差しを見て、ホストファミリーの優しい気持ちが嬉しく涙が出ました。特にアスリートを“great”という言葉で表現してくださったことにウィルソン夫人の心の広さを感じ、強く心を打たれました。試合が終わり表彰式の後、いよいよお別れというときには、明里はホストファミリーの皆と抱き合い、お互いに泣いていました。

2003年にSOに初めて参加し、2004年の2月、富山の仲間とフロアホッケーで出場した長野でのナショナルゲーム。その頃から「いつか世界大会に...」と思っていましたが、こんなに早くその日が来るとは思いませんでした。ましてや、アスリートが私たちのもとに授かりその障害を知らされたときには、将来、こんな感動的な出会いがあり、

ファミリー 戸田 薫

晴れ場でアスリートが充実感、達成感を味わうことができるSOという素晴らしい活動の存在、そしてそこに私たちが参加することなど想像さえできませんでした。

それも、この富山にSOの種をまき、大きく成長させてくださったすべての皆様のお陰と感謝しています。アスリートがいたからこそ得られた今回の多くの感動を忘れることなく、これからもSOに参加していきたいと思っています。



ホストファミリーとの夕食

現地でアイダホ世界大会を観戦して

大会会場となったボイジーの街に入ってまず感心させられたのは、ボランティアだけでなく街の人たちが皆とても親切で、しかも大会を成功させ盛り上げようとして一生懸命だったことです。ボランティアの方々が編んだ青と白のマフラーが参加者に配られ、そのマフラーを着けていると気軽に声をかけてもらえるのです。街全体が私たちをお客としてもてなそうという心遣いにあふれていました。

決勝戦には、アスリートが大会前に宿泊していたホストファミリーのみなさんが1時間半の道のりを駆けつけて応援してくださいました。アメリカに行く前は、「息子は英語も話せないし、知らないところで大丈夫か」と心配でしたが、ホストファミリーのお宅では、ジェスチャーや簡単な単語を並べてなんとかかなったようです。

ホストファミリーといえば、日本と対戦したアフガニスタンのホストファミリーたちは、ユニホームも防具も揃えることができなかったアスリートのためにお金を出し合ってプレゼントしたと聞きました。試合の途中、選手が交代するたびに半分の数しかないそのヘルメットを次のメンバ

ファミリー 岩白 誠

ーに渡す姿を見て、思わず涙が出ました。このエピソードについて、アスリートたちはコーチから、「恵まれている自分たちの環境への感謝の気持ちを忘れないように」と聞かされたそうです。現地のホストファミリーには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



アフガニスタンを応援するホストファミリー

応援ファミリーで参加して

今回の世界大会参加にあたっては、各方面の方に多大なご支援・ご協力を頂き、ありがとうございました。

現地でのこの大会の扱いはすばらしく、朝 6:00、6:30、7:00の節目のTVニュースのトップニュースとして、各会場の昨日の模様や本日の予定、各会場の天気予報など、

ファミリー 林 慎二

大会のことが一通り報道されます。そのあと政治関係のニュース、その次に野球やバスケットといった一般のスポーツニュースの順番で放送していました。いかにアメリカではSOの認知が進んでいて、SOのアスリートであることが誇らしいことであるか、TVに出ているアスリートか

らも、ファミリーからも、「自信と誇りを持って参加しているんだ」ということが表情からよく伝わってきました。

アルペンスキーの応援に向きましたが、シャトルバスは朝7:30に出発してスキー場まで約1時間。帰りはスキー場を16:00頃出発。その間の移動手段はありません。14家族が応援に参加していましたが、期間中毎日のように予選か決勝があり、応援ファミリーは必ず一緒に行動します。1週間近くも連続して同じメンバーで試合観戦以外は特にすることもなく朝から晩まで顔つき合わせるといふ機会はなかなかないですね、年齢や職業など千差万別でしたが、おかげさまでいろいろな方と知り合いになり、仲良くなれました。帰ってきた今でも電話やメールのやりとりで大会を振り返り、様々な地区組織の方とのお付き合いを楽しんでいます。このようなきっかけをつくってくれた娘に感謝したいと思います。



全国の地区組織のファミリーと

やっぱり、アメリカだ！

今回私は、「SOの本場アメリカを直に目で、耳で、肌で感じ、そしてアスリートと共にアメリカを楽しもう！」と心に決め、それを実行してきた。

アメリカは実に優しく、そして全てを包み込むように私たちを迎えてくれた。宿泊先のホテルから山道をバスで1時間以上かかるところにアルペンスキー競技の会場はあり、バスの中ではもっぴら眠ることが仕事だったくらいだ。会場に到着すると、バスから降りたとたん眠気も吹き飛ばすような熱烈な歓迎が毎日繰り返された。また、実際に競技が始まると、スタートハウス付近などでは、地元のボランティアや競技役員たちが次に滑るアスリートの名前を私に聞いてきた。そして、アスリートを名前で呼んで一緒になって緊張を解いてくれたりしたのだ。ボランティアたちがゴール付近でハイタッチでアスリートを迎えてくれるのを見て、思わず熱いものがこみ上げてきた。

実におおらかで偉大なアメリカの心と、人々の中のSOに対する認知度の高さを痛感することができた瞬間だった。

金メダルの瞬間

アイダホに行った2週間の中で、アスリートのたくさんの「顔」と出会いました。スケールの大きなアメリカに驚く顔、ホストファミリーとの会話にしどろもどろする顔、大会が始まりファミリーが応援に来てくれて涙を見せて再会を喜ぶ顔、試合で思うようにできず悔しがらる顔…。中でも最も印象に残っているのは、金メダルが決まった瞬間のアスリートの歓喜の顔です。それまでの頑張りが認められ、ずっとずっと夢見ていたメダルが現実になった瞬間、みんなが涙し抱き合って喜びを分かち合いました。

今回のアイダホ大会 FH チームの田中 HC が最後の挨拶のときに、「世界に一つだけの花ではなく、アスリートはすでに十分オンリー1なのだから、ナンバー1を目指して頑張してほしい」とおっしゃっていました。私もそう思います。今回の世界大会の中で、アスリートの優しさ、純粋さ、ひたむきさを感じる事が何度もありました。ととてもとても素敵なものをたくさんもっているアスリートだからこそ、自信をもって上を目指してほしい。それはSOの中だけでなく、それぞれの仕事や生活の中でもいえることだと思います。

アルペンスキーヘッドコーチ 金山 彰



よくやったね！

このような機会を与えてもらい、SON・富山のスタッフをはじめ、アスリート、ボランティア、ファミリーのみなさんに感謝するとともに、この貴重な体験を無駄にすることのないよう今後の活動に生かしていきたいと思う。本当に、ありがとうございました！

フロアホッケーコーチ 熊田 美和

目標に向かって頑張る姿の尊さ、頑張ればできるのだという勇氣、これらをアスリートから教えてもらいました。「ありがとう」の気持ちは、これからまたプログラムで関わっていく中で返していけたらと思います。今後ともよろしくお願いします！（^o^）



輝くアスリートに囲まれて

最近のイベント

スノーシューイングのお試しプログラム

2月7日(土) 3月7日(土)の二日間、国立立山青少年自然の家でスノーシューイングのお試しプログラムを開催しました。50人程度の参加者があり、2日間とも晴天に恵まれて気持ちよいトレーニングができました。

最初は体育館で説明を受け、いよいよ屋外に出てスノーシューを履く練習です。意外にも時間がかかるのです。コーチが皆の足元をチェックして出発です。最初は少し下りで、トレーニングポイントまでは約30分の道のりでした。

雪の広場に着くと、まずはボランティアのみなさんが走る、走る、走る！大学の野球部の人もいて猛烈ダッシュです。アスリートも続きます。アスリートもいい顔しています。その後、景色のいい小さなピークで一休み。

空を見上げれば、スッキリ爽やかな青い空。帰り道は思い思いにゆっくりと。ほんとうに気持ちのよいトレーニングでした。参加者は、みんな思っていました。「来年、正式種目になればいいな」って。



参加者の声

ボランティアとして参加して

はじめまして。2008年度からSON・富山の学生ボランティアとして参加させていただいています。私がSON・富山に関わるようになったのは、熊田コーチからの誘いで、昨年冬のフロアホッケープログラムを見学したことにより活動に興味を持ったことから始まりました。

私自身は中学から現在までテニスを主にやってきました。SON・富山での活動にテニスプログラムがないので、コーチとして自信を持って参加できるものがなく、当初は消極的でした。しかし、何事も動かなければ変わらないと考え、夏のプログラムでは時間を作って水泳・卓球・陸上・ボウリングなどに浅く広く参加しました。短い時間の中でも、アスリートの成長を実感でき、同時に自分自身も成長していることに気がきました。経験不足であるにも関わらず、ボウリングの東海・北信越ブロック競技会に追加スタッフとして参加させていただくことができ、アスリートの頑張りやアスリート・コーチ・ファミリーが相互に深い絆で結ばれていることを実感できる空間に居ることができたことで、自分自身もとて

ボランティア 北村 満

も成長できたと思います。

もっと活動を絞ってアスリートと深く関わりたいと思い、冬はフロアホッケープログラム富山会場でボランティアコーチ兼サブマネージャーとしてやらせてもらっています。ほんの少し運営側に回っただけで今までとは違う視点が出て、プログラムの中でのヘッドコーチの細かい気遣いやファミリーの皆様の温かさを再確認できました。

さらに、アスリート委員会にサポーターとして参加しアスリートみんなの柔軟な考え方ややさしい気持ちなどに触れる中で、SOの活動をもっと多くの学生に広げたいと強く思うようになりました。今年の4月で大学3年生となりSON・富山の活動にあと2年は最低でも参加する中でみなさんと共に成長し、富山大学内の学生ボランティアの輪を広げながらこれからの活動に積極的に取り組んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。



はじめの一步

スペシャルオリンピックス(SO)には、2008年夏季プログラムから家族で参加しました。SOに参加することでどのようなメリットがあるのか、娘の成長につながるのか、安全に参加できるかなど多くの不安がありました。今ははじめの一步を踏み出して良かったと思っています。

まず卓球に参加しました。娘はラケットに球を当てるのも難しく、無理させていないかと途中で挫折しそうになりましたが、競技会の表彰式の時、みなさんの前で笑顔で万歳する姿に「続けることの大切さ」を改めて感じました。また弟(小4)も、パートナーとして一緒に参加しました。彼は最初は落ち着かない様子でしたが、次第にアスリートの良さを見つけ、最後はアスリートと共にスポーツを楽しんでいるように見えて嬉しく思いました。

その後、文化プログラムとアルペンスキーにも参加しました。娘はどのプログラムも楽しみにしてい

ファミリー 塚本 幸子

て、音楽で習った歌を家でも口ずさんだり、スキーでは自分から靴を履こうとするなど、自ら積極的に活動する意欲が感じられました。これは、とても大きな成果だったと思います。

最後に、熱心に指導していただいたコーチの方々に感謝したいと思っています。蒸し暑い体育館でラケットに球を当てるタイミングを根気よく教えてくださったり、雪の斜面で重たい娘を支えながらボーゲンを教えてくださったり、汗だくになりながら愛情のこもった指導をみなさんにさせていただきました。本当にありがとうございました。これからも、娘がどんな姿を見せてくれるのか楽しみにしながらファミリーとしてサポートしていけたらと思います。



サッカープログラムの支援体制

一昨年からスタートしたサッカープログラムには、昨年から富山市の中学生年代のサッカークラブである「FC ひがし」の選手たちが活動に参加してくれています。また、今年からは、スペシャルオリンピックス日本のナショナルパートナーでもあるソニー生命㈱の金沢支社富山営業所の有志がサポートに加わります。

3月2日(月)、SON・富山の吉田満事務局長、松岡英治サッカープログラムヘッドコーチらが、FC ひがしの中川代表と今期のプログラムの進め方を打ち合わせしました。

今年度は、プログラムの進め方を少し変更して、計8回のトレーニングを平日の夜間にも開催することが打ち合わせされました。また、FCひがしとアスリートの交流プログラムを実施する予定です。打ち合わせに参加したのは、松岡 HC、押田繁光さん、川原隆志さん、金子悟士さんです。松岡 HC や押田さ

んは、これまでも SON・富山の活動を積極的に支援くださったメンバーです。今年のサッカー、期待しましょう！



中央が中川代表、その左が松岡ヘッドコーチ
ソニー生命保険㈱金沢支社富山営業所の左から
押田さん、中川代表の右が川原さん、金子さん

あかりハウス

心身障害者共同作業所 あかりハウス代表 田中 ひさ子

養護学校を卒業した後、障害の重い人たちであってもそれまで学校に通っていたときと同じように毎朝家から出て生活できる居場所がほしいと、今から10年前に親たちが中心になって活動を始めました。それが、「あかりハウス」です。呉羽山の裾野にあるあかりハウスは、富山駅から車で10分位。そして民俗民芸村の近くにあり、四季折々の散策に訪れる方々のいこいの場になっています。

行政をはじめ多くの関係機関、地域の皆様方の温かいご支援に支えられ、平成19年度にNPO法人となり、利用者20名が集う施設になりました。主な作業は、手づくりクッキー、マドレーヌ、パウンドケーキ、チョコパウンドに、季節限定のアップルパイ。



草もち、桜もち、ゼリー類の菓子も作っています。これらの焼菓子は、各地で開催されるイベントや病院の売店、各学校行事をはじめ喫茶店でも販売しています。

障害の重い人も、そうでない人も、たくさんのボランティアさんとみんな同じ屋根の下で楽しく作業に励む生活から生まれる焼菓子たちは、多くの人に幸福を運んでいます。呉羽山にお出かけの際は、ぜひあかりハウスにお立ち寄りください。お待ちしております。

特定非営利活動法人 あかりハウス

939-0881 富山市安養坊 680 Tel&Fax 076-441-5005

<http://www.geocities.jp/omiso1shiru/akari.htm>

アスリート委員会の活動報告

SON・富山は、平成 17 年に地区組織となり、それとともにアスリート委員会が発足しました。アスリート委員会では、平成 18 年と 19 年に、アスリート委員会主催のカラオケ大会とピンゴ大会をクアトロブーム小杉で開催しました。開催にあたり、アスリート委員長、副委員長、委員数名を選出し、打ち合わせや準備を行いました。サポーターとしてボランティアコーチが 3 名付いてくださいました。平成 20 年には、全国アスリート会議に委員長、副委員長とサポーター 2 名が出席しました。

アスリート委員長 杉森 建彦、副委員長 中山 真美

「他の地区のアスリートと交流ができ、全国に友達ができました。そして、他の地区の活動状況を聞き、とても刺激を受け、富山でも頑張ろうと思いました」(杉森談)。「スタッフとしてアスリート会議に参加して、運営にたずさわわり、先輩メッセージャーからアドバイスをもらいながら頑張りました」(中山談)。

アスリート委員会では、いろいろなイベントにもスタッフとしてたずさわっています。みなさんもこれからは、各種イベントに参加して楽しみましょう。

アスリート委員会のサポーターになって

みなさん、こんにちは！ スペシャルオリンピックスには、昨年の卓球プログラムから参加させていただいています。卓球プログラムが終わって、アスリートと接する機会がなかなかないと思っていたところにアスリート委員会のサポーターの話があったので、大してお役に立てませんが、勉強のつもりで参加させていただくことにしました。活動を通じて、アスリートには私たち凡人にはわからない感性と能力があるということを強く感じます。

ただ横に座って話を聞いているだけでですが、アスリート

ボランティア 橋本 真奈美

の一生懸命さ・純粹さに、心癒されることが多々あります。ミーティングが白熱してなかなか話が前に進まないこともありますが、結論を急がず、アスリートの意見を尊重しながらサポートできればと考えています。これからもどうぞお手柔らかにお願いします。



<アスリート委員会とサポーター>

現在、SON・富山のアスリート委員会には、杉森委員長と中山・岩白副委員長のほかに、戸田、常木の 2 人の委員が活動しています。これらのアスリート委員を陰で支えているのがアスリート委員会のサポーターです。サポーターは打ち合わせの中でアスリートから意見を引き出したり、ちょっとした軌道修正も行います。

サポーターのリーダーは堀江さんで、橋本さんがサブを担当しています。昨年のクリスマス会では、サポーターの支援のもとアスリート委員たちが司会を務めてくれました。これからもサポーターの協力を得て SON・富山のアスリート委員会は主体性のある自立した委員会を目指します。



アスリート委員会活動履歴

年度	日時	場所	内容	備考
平成 20 年	11 月 15 日 (土)	富山市障害者福祉プラザ	第 1 回アスリート委員会	
	12 月 6 日 (土)	富山事務所	第 2 回アスリート委員会	
	12 月 13 日 (土)	デュオ	クリスマス会	司会担当
	12 月 20 日 (土)	富山事務所	第 3 回アスリート委員会	
平成 21 年	1 月 8 日 (木)	富山事務所	全体委員会	報告
	1 月 17 日 (土)	"	第 1 回アスリート委員会	
	2 月 1 日 (日)	富山県総合体育センター	総会	報告
	2 月 21 日 (土)	富山事務所	第 2 回アスリート委員会	

SP委員会より

輝かしい成績とともにアイダホ大会も無事終了しましたが、富山ではまだ冬季プログラムの真っ最中です。フロアホッケーチームも長野ブロック競技会に向け頑張っていますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。

そんな中、SP委員会では現在、夏季プログラムの準備に追われています。というのも、今期、陸上・水泳・サッカーの3種目でヘッドコーチに交代があるからです。新たなコーチ陣と新たな環境の中、アスリートたちはまた一段と成長を見せてくれることでしょう。こちらの方も皆様方の応援・ご協力をお願いします。

さて、今年は国内での大きな大会はありませんが、数

スポーツプログラム委員長 澤田 守弘

年ぶりにナショナルミーティングが開催される予定です。ナショナルミーティングとは、地区組織の関係者(アスリート、ボランティア、コーチ、ファミリー、理事等)が一堂に集い、研修や会議、分科会等を行い、SO活動への理解を深め、今後の活動発展のために必要なアイデアや経験、情報を共有し合う合同ミーティングです。

全国47都道府県に地区組織・設立準備委員会が発足し、SONは設立当初からの大きな目標をついに達成しました。今後は有森理事長の下、新しいビジョンと新たな目標を掲げて進もうとしています。SON・富山も他の地区組織と一緒に頑張りましょう！

運営委員会より

メディカルチェックと保険、会員登録と同意書

医療安全対策委員会が主に管理しているのはメディカルチェックと保険です。毎年、何人かの方が、書類の提出方法を間違えたり手続きが遅くなったりして事務面に支障が出ていますので、ご注意ください。

ディカルチェックとスポーツ安全保険は毎年3月中旬下旬の締め切り日までに提出し入金が必要です。メディカルチェックの書式はHPからダウンロードが基本のほか、毎年2月に開催する総会でも配布します。それ以外は、別の会員にお願いして入手することの他は着払いでの郵送となります。

2009年冬季プログラムから、アスリートの兄弟姉妹等がアスリートと一緒にプログラムに参加する場合、コーチとして指導する側ではなく、アスリートと同じように指導を受ける側として参加する場合は、パートナー登録をお願いしています。

医療安全対策委員長 八木 恵子

アスリートには、最初に活動に参加する前に「医療同意書」を提出いただいていたのですが、その後、参加に当たっての同意内容が緊急手術や輸血等の医療面だけでは不十分となってきたため、全てのアスリートに再度、新書式での「同意書」を提出いただくことになりました。書式はハートフルニュース本号に同封してあります。同封の返信用封筒で2009年夏季プログラムの参加申し込み締め切り日(5月8日)までに返送してください。なお、冬季プログラムのみに参加する人の同意書も提出期限は同じです。

これらのことは、4月18日(土:高岡)、19日(日:富山)で開催するプログラム説明会で詳しく説明します。毎回、お願いしていますが、継続的に参加するアスリート(又はその保護者)であっても、参加する季のプログラム説明会には必ず出席してください。

SON・富山のグッズ

SON・富山では2009年夏季シーズンに向けて4種類のグッズを作りました。グッズにはいずれもチューリップのキャラクターがデザインされています。車のガラスやジャケット、手帳などいろんなところに付けてSON・富山をPRしましょう。

価格は、Tシャツが1500円、ピンバッジとシール、ワッ

ペンがそれぞれ500円です。シールはA5の大きさの台紙に裏糊になった大小5種類11枚がセットになっています。ワッペン(ワッペン)は縦横約9センチ。ピンバッジは横27mm×縦26mmの七宝とシルクスクリーン印刷でかなり美しいですよ～



充実の新コーチ陣

2009 年から陸上競技、水泳高岡会場、サッカーの3種目でヘッドコーチが交代し、プログラム内容を更に充実させます。

陸上の熊田新 HC は長年 SON・富山のボランティアの若手リーダーとして活動してきた日本陸上競技連盟公認審判員資格を持つベテランです。更に HC の下には、長年富山陸上競技協会の審判員を務めてきた佐野高岡市

体育協会副理事長の他数名のベテラン審判員がサポートします。サッカーの松岡新 HC は、日本サッカー協会 C 級審判員資格を持つベテランで、少年サッカーのコーチや SON・石川でスノーボードのコーチ経験もあるベテランです。水泳高岡の尾山新 HC は高校時代に北信越選手権に毎回出場した競技暦 32 年のベテランで、これまでも高岡水泳で HC をサポートしてきたファミリーです。

アスリートは、来年の大阪を目指そう！！

2010 年、スペシャルオリンピックス夏季ナショナルゲーム・大阪が開催されます。SON・富山からもアスリートの出場が期待されています。ナショナルゲームに出場するためにも、2009 年の夏季プログラムで、しっかりと実力を付けておく必要がありますね。アスリートは、今年のプログラムを頑張っ来年の大阪を目指しましょう。

<賛助金・寄付金をお寄せ下さった皆様(2008 年 11 月～2009 年 3 月 21 日)>

敬称略

青木 誠之助	小川 由加里	柴田 和彦	當波 瑛美	二口 桂子	宮林 亮
油本 翔太	荻生 明美	柴田 万希子	當波 秋子	本田 繁	村上 朝子
油本 光正	上 卓	島崎 良成	長久 慎吾	前田 恵佑	村下 陽一郎
油本 栄子	上 文佐乃	杉谷 智子	長久 満	前田 万里子	村下 勇
荒見 真央	上原 恵	素谷 孝子	長久 栄子	前田 拓海	村下 禮子
荒見 雄一郎	上原 公子	素谷 宏	長森 幹二	前田 久美	村中 洋介
荒見 奈保子	上原 悠太	高田 裕一	中山 真美	巻端 凌生	山岸 明子
石井 純	川瀬 孝義	高畑 一樹	中山 正之	巻端 克文	山崎 慶吾
石井 郁子	北川 登貴	高畑 武志	中山 育子	巻端 真紀	山崎 典子
石田 尚輝	北川 文子	田口 美里	中山 正詞	松田 智至	吉澤 誠
岩瀬 真奈	小坂 良夫	田口 昌宏	中山 スミエ	松村 雄樹	吉澤 正治
岩瀬 妙子	佐伯 秀彦	田口 靖子	野畑 晴美	松村 敏雄	吉澤 直美
岩瀬 晴菜	笹井 大生	竹田 慶正	林 せつ子	松村 亜由美	吉田 満
岩白 翔太	笹井 隆康	塚本 裕香子	林 紀子	松村 美枝子	若松 文枝
岩白 誠	笹井 美保	常木 くるみ	林 良子	松村 智恵子	渡辺 友里
岩白 真美子	笹井 亜弥	常木 修一	開 裕貴	三上 裕之	渡辺 隆志
岩白 真衣	笹井 祐輔	常木 育美	開 和美	三津島 渉	
内山 晃	篠田 健弘	戸田 武宏	平野 龍司	三津島 淳	
小川 航	柴田 健弘	戸田 美香	二口 悠太郎	三松 隆之	
(株)コマツ産業			社団法人富山県手をつなぐ育成会		

ありがとうございました。

賛助金・寄付金振込先

スペシャルオリンピックス日本・富山

(日本は、「ニッポン」としてください。)

北陸銀行本店(店番 101)、普通口座 5207770

賛助金

<個人> 一口 3,000 円

<企業・団体> 一口 10,000 円

お問い合わせは、SON・富山事務局あてメールもしくはファックスをお願いします。

ApeosPort-III C7600/C6500/C5500




インターネットとつながり
進化する複合機

富士ゼロックス北陸株式会社

本社 金沢市中橋町11番18号
TEL(076)260-0900 FAX(076)260-0901
<http://www.fujixerox.co.jp/turx/>